

○15番（蔵野恵美子君）

それでは、通告に従いまして質問させていただきます。今回の質問は、大きな項目で4点でございます。1項目めは、武蔵野市のワクチン接種率は都の平均より高いにもかかわらず、なぜ「遅い」と言われてしまうのかについて、2項目めは、身近なPCR検査について、3項目めは、在宅療養者急増対策について、4項目めは、学童クラブの第三者評価導入についてでございます。

まず、1項目めのワクチン接種について質問いたします。5月6日より予約が、13日より接種がスタートして、約4か月が経過しました。この間、予約・接種体制について様々な御意見をいただいた中で考えてきたことがあります。それは、武蔵野市の接種率は都の接種率よりも高いにもかかわらず、なぜ市民から遅いというような意見が寄せられるのかということです。市のホームページの9月6日時点での本市の全年齢接種率は、1回目接種率66.6%、2回目が50.7%、都民全年齢の接種率、こちらは9月1日時点ではありますが、1回目52.1%、2回目40.1%とあり、1回目、2回目とも本市は10ポイント以上上回っております。

そこで、これまでいただいた御意見と厚生委員会の行政報告、私自身の予約等を通じて感じたことなどから、接種率と市民の満足感との乖離について考えたいと思い、以下質問いたします。

なお、世界中で起こっているワクチンの供給不足から生じるワクチンナショナリズムの課題は、日本における自治体間でも生じかねない問題でもあることを認識し、他自治体との供給バランスを保った上で、供給されたワクチンを、接種を希望する市民が可能な限り速やかに接種されることを願っての質問であることを、あらかじめ申し上げます。

1、各自治体間の接種率の違いが生じるのはどのような要因が影響しているかと考えるか、また、都内では墨田区の接種率が高いと言われていますが、要因をどう把握しているか伺います。

2、集団接種の接種曜日を木、土、日曜日に限定している理由について伺います。曜日を限定することで、予約日から接種日が最大3週間も空いてしまう方が出てしまう場合があります。その結果、予約が取れても随分先という感想を持たれる要因になっていると考えますが、見解を伺います。

3、ワクチン予約サイトについて伺います。武蔵野市のワクチン予約サイトは集団接種会場のみのもので

約であり、個別接種会場はそれぞれのクリニックの予約可能時間帯に個別で予約を入れなければならず、大変な時間と労力を要するという意見があります。一方渋谷区のように、全ての集団接種会場、個別クリニックの一括した予約空き状況カレンダーでは、予約可能、残り僅か、予約満員、予約枠なしが色分けされており、一目で空き状況が確認できます。ページ上の移動ボタンをクリックするとそのまま予約サイトに移動し、個別医療機関もそのまま同一のサイトで予約できるという、大変優れた予約サイトが評価されているのです。

こちらがそのカレンダーの一部でして、横軸に日付、縦軸に各会場という一覧表ですが、色分けになっている一部分をかなり拡大して印刷したものです。9月6日時点で、集団接種会場3か所、個別医療機関は106か所の1か月の空き状況カレンダーが、ずらっと3ページにわたり掲載されています。

このサイトの御担当者の方にお話を伺ったところ、各クリニックにアカウントを割り振り、ワクチンの残り個数に応じてセルの色が変わり、自動的に更新される仕組みとなっているそうです。区民から、日付ごとの空き状況が提示されないと意味がないとの御意見をいただき、すぐにこのようなサイトを作成されたというお話でした。市民目線を踏まえたこのようなサイトを導入すれば、大方の市民のニーズを満たすものと考えます。本市でも早急に検討いただきたいと思いますが見解を伺います。

4、ワクチン情報の提示について伺います。西東京市では、「新型コロナワクチン掲示板」というワクチン専用のサイトを作成し、ワクチンに関する日々の情報等を分かりやすく更新しています。こういった親近感があり、ワクチン情報を一括した分かりやすい情報発信の工夫も検討されるべきではないかと考えますが、見解を伺います。

5、予約のアクセスは圧倒的にインターネットが多いと伺っていますが、現時点での全体予約数に対するネット・電話・郵送予約数と、それぞれの割合について伺います。75歳以上の予約体制の反省から、65歳以上の方には郵送による受付も実施されましたが、65歳未満でネット操作ができない方や環境が整っていない方への配慮として、どのような対策をしているか伺います。

6、個別接種一覧で記載のある、かかりつけ患者の定義について伺います。個別接種を希望するものの、予約の電話をするも話中音やお待ちくださいのアナウンスが何時間と続き、ようやくつながったにもかかわらず、かかりつけ患者でないと断られることを想定すると、アタックする気持ちになれないという御意見がありました。かかりつけ患者の定義をある程度明確にして掲載するべきではないかと考え

ますが、見解を伺います。

7、12から19歳の接種率の評価について伺います。8月19日の厚生委員会の行政報告では、その時点で1回目接種率15.46%であったという報告でありました。9月1日の通告書提出時の直近の1回目、2回目の接種率と、その評価について伺います。夏休み中に接種が受けられるようにという配慮から、8月3日より予約受付をスタートしましたが、3週間後の2回までの接種を夏休み中に終わらせるには、もう少し早い接種が必要ではないかとの御意見がありました。さらに2回目接種後に高熱が出やすいという報告を考えると、2回目まで夏休み中に接種することが望ましかったと考えますが、見解を伺います。

また夏休み中の接種が目的であれば、40歳以上と同一の一斉予約ではなく、優先等の考慮が必要だったのではないかと意見もありました。あわせて見解を伺います。

8、8月19日の厚生委員会行政報告において、20代からの若年層への接種を進めるために、9月の補正予算審議後、10月以降、吉祥寺駅北口駅前広場に集団接種会場を設置する予定との報告がありました。一方で、既に早い段階で市民からは、駅前に接種会場を設置すべきという意見も出ていました。さらに国が今年の6月限定で、大規模接種会場設置の自治体にモデルナ社ワクチンを追加配給するという期間限定の施策を出したことで、駅前設置を急速に進めた自治体がありました。そういった経緯から、駅前に新たな接種会場をつくれるなら、早い段階でつくっておけばよかったのではないかと意見もありますが、見解を伺います。

9、3回目接種を想定した体制の見直しについて伺います。新型コロナウイルス感染症との闘いが長期戦となることが想定され、ワクチン接種も2回のみならず3回接種、さらには数年ごとに接種という話も出てきています。これから冬休み、その後の受験シーズンが訪れますが、中学3年生や高校3年生など受験生を対象にした、接種時期を考慮した予約体制を要望する声もありますが、見解を伺います。

さらに、長期にわたる接種を考慮し、3、4で提案したような予約システムや情報提示の大幅見直しについて検討すべきと考えますが、あわせて伺います。

大きく2項目めとしまして、身近なPCR検査について伺います。現在PCR検査は、発熱等の症状がある場合などの検査は保険適用となりますが、無症状の場合の検査は保険適用外となり、約3万円の費用がかかると言われています。これでは身近な検査体制とは言い難い状況です。そこで神奈川県は7

月末より、希望する県民に抗原検査キットの無料配布を始めました。陽性と分かった県民が通勤や通学を控え、他人への感染を防ぐ効果が期待されています。アンケート調査で配布を希望した約 10 万人に、キットを順次送る方向であると報道がありました。将来的には全県民に行き渡り、家庭の体温計のように気軽にセルフチェックに使ってほしいという思いがあるとのこと。

本市でも独自支援の一環として、希望する市民に検査キットを送付することで、市内感染者を抑え、市民の命を守り、最終的には自治体業務を減らすことにつながる施策と考え、以下伺います。

1、これまでの市のPCR検査の取組、市単独事業を含め、内容等の経過と課題、評価について伺います。

2、本市のPCR検査場所、実施検査数の推移、スタート時から今日に至るまでの件数の推移について伺います。

3、市単独事業で全市民に抗原検査キット配布事業を実施することの展望について伺います。

次に、大きく3項目めとしまして、在宅療養者急増対策について伺います。東京都北多摩南部保健医療圏は、武蔵野、三鷹、府中、調布、小金井、狛江市の6市を抱える、人口が100万人を超える医療圏であります。同圏内には保健所が1つとなっています。一方第5波で感染者が爆発的に増える中、入院調整中を含めて自宅にとどまる療養者は、各市200から600人前後に上り、深刻な状況であると聞いています。武蔵野市を含む6市長が、8月26日、都に対し、臨時医療施設の開設を求める要望をされたという報道がありますが、保健所業務が悲鳴を上げる中、東京都との連携を強め、各自治体の早急な対応を願い、以下伺います。

1、本市における入院調整中を含め、自宅にとどまる療養者数の推移、2021年1月から現在まで、各月ごとについて伺います。

2、野戦病院的な施設とも言われています医療施設、酸素ステーションの本市での設置内容について伺います。設置時期、場所、スタッフの確保など目安はあるのかなど、予定内容を伺います。また、現時点での課題、展望を伺います。

3、報道等では臨時医療施設に「野戦病院的な」という名称が使われる場合があり、施設名がそぐわないという意見が出ています。本市もしくは北多摩南部保健医療圏における統一の施設名を考えることについて見解を伺います。

4、東京都は2020年11月、24時間対応の自宅療養者フォローアップセンターを開設しました。新型コロナウイルスの自宅療養者を、健康観察、食料品の配布、24時間対応の相談窓口、パルスオキシメーターの貸与などを通して、物質的、精神的両面の支援をすると伺っています。東京都の自宅療養者フォローアップセンターと北多摩南部保健所、本年9月1日に自宅療養者支援窓口から名称変更の本市の自宅療養者支援センターの連携は、どのような場面でどのような連携となっているのか伺います。

5、在宅療養者への食事内容について伺います。在宅療養者の希望に応じ、東京都7日分、その後、希望の連絡があった療養者には、本市の自宅療養者支援窓口より3日分のレスキューフーズを配送していましたが、本年9月1日より自宅療養者支援センターに名称を変更し、市独自の医療支援体制強化とともに、本人からの申出があった場合、都の支援が切れた後という縛りなく、早急に食料品や日用品のお届けがなされる支援事業がスタートするとの報告があり、市民にとって大変心強い事業であることを大変評価しております。

一方で以前より、ありがたい事業ではあるが、食事内容が非常食等の備蓄品を中心としたものではなく、症状が重い時期は飲料や果汁、おかゆ等の食事、回復期には体力をつけるための栄養のある食事と、状態に応じた食事の配送はできないかとの御意見もありました。個人情報の許可をされ、希望する療養者に、市内事業者と連携したお弁当など、お総菜を配送している自治体もあります。本市でも保健所や市内事業者と連携して、希望者に栄養面を考慮した食事を提供できないか伺います。

最後に大きく4項目めとしまして、学童クラブの第三者評価導入について伺います。学童クラブは法制化されたのが遅く、その運営形態は多様で、自治体格差が存在しています。そのような状況下で、国は学童クラブ職員の資格要件の緩和に続き、2020年4月より学童クラブの職員配置基準を参酌化し、子どもが長時間過ごす場所である学童保育の質的内容を自治体の裁量に任せています。自治体の裁量に任せるのであれば、国は質を守るための評価事業に率先して取り組むべきと考えます。

本市の学童クラブ保護者による武蔵野市学童クラブ連絡協議会の市への要望書には、2019年、2020年ともに、第三者評価実施について掲載されています。ついに厚労省が令和3年3月29日付で、放課後児童健全育成事業における第三者評価基準ガイドラインについての通知を出し、ガイドラインの内容が検討されていることが示されました。本市について第三者評価の導入を求め、以下質問します。

1、武蔵野市放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例第5条の4には、放

課後児童健全育成事業者は、その運営の内容について、自ら評価を行い、その結果を公表するよう努めなければならないと規定しています。努力義務とありますが、実際には行われているのでしょうか。行われている場合、子ども協会ではどのように、1)自己評価が行われ、2)結果を認識し、3)情報の共有、改善につなげているか、概要を伺います。

2、保護者からの評価は集約しているか伺います。実施していればどのように意見を集約し、結果をどう受け止めているか伺います。

3、武蔵野市放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例第 19 条には、放課後児童健全育成事業者は、常に利用者の保護者と密接な連絡をとり、当該利用者の健康及び行動を説明するとともに、支援の内容等につき、その保護者の理解及び協力を得るよう努めなければならないと規定しています。子ども協会やほかの民間学童クラブでは、どのように密接な連絡を取り、理解及び協力を得ているのか、コロナ禍で直接会う機会が少ないと考えられますが、コロナ禍での対応も含め伺います。

4、保護者との連携を進めることや保育の質を高めるためにも、客観的な第三者評価が必要と考えます。保護者に何うと評価はおおむね高いようではありますが、よいにしろ、課題があるにせよ、第三者による客観的な評価を知り、自らの評価と比較したいとの思いもあると伺っています。また、市内の保育園では既に実施しています。以上のことから、武蔵野市内の学童クラブでも第三者評価を早期に行うべきと考えますが見解を伺います。

以上で壇上からの質問とさせていただきます。よろしく御答弁をお願いいたします。

○市 長（松下玲子君）

蔵野恵美子議員の一般質問に順にお答えをいたします。

まず、1項目めの1についてです。当初から、国からのワクチン配分の時期が自治体によって異なり、スタート時期に違いが生じていましたが、その後、接種がより進んでいる自治体に多く配分するという考え方を取る時期や、在庫率が低い自治体に多く配分するという考え方を取る時期があるなど、国のワクチン配分方針が短期間の中に何度か大きく変わり、定まらなかったことで、結果的に一部の自治体だけにワクチンが多く供給されるという事態が生じることになったと考えております。これに伴いワクチン配分が減少することで、接種スピードを制限

せざるを得ない自治体が多く出てきたことが、自治体間での接種率が違う要因になったのではないかと認識をしております。

御指摘の墨田区は、9月4日時点で対象区民全体の1回目接種率が73.3%であり、本市の同時期の対象市民全体の1回目接種率66.6%を上回っております。墨田区の接種率が高い要因としては、様々報道等も含めて推察をいたしますと、第1に武蔵野市と違い保健所設置自治体であるため、新型コロナ対策の中核を墨田保健所が担っているということ、第2には、16歳以上の接種券の発送が6月初旬と早かったこと、第3に、65歳以上に限定して行われていた自衛隊の大規模接種センターが、6月16日から年齢制限撤廃を発表し、墨田区から地理的に比較的近い自衛隊接種センターで区民が接種し、墨田区の対象者の5%に当たる1万2,000人が、8月初旬段階で接種をしていると言われていることなどが挙げられるかと思えます。

本市の9月6日時点での接種状況は、同時期の都内全体の1回目接種率、2回目接種率ともに上回っているという現状もございます。

続いて2点目についてです。集団接種体制については、当初から武蔵野市医師会と協議を行ってきており、その中で市医師会からは、通常診療のほか、PCR検査や発熱外来への対応等、新型コロナウイルス感染症に係る新たな業務も発生している状況の中、集団接種会場に複数の医師を執務させるために、多くの医療機関が休診日となる木、土、日を接種日としてほしいとの要望を受けて設定したものです。今後、接種対象者がより若い方へ移っていくことから、開催曜日を増やしての実施や接種時間帯について検討してまいります。

続いて3についてです。市のワクチン予約サイトで個別接種の予約受付管理を行うことについては、これまでも市医師会と協議を重ねてきたところであり、市で一括管理をすることで、各医療機関の個別事情による予約枠、期間の変更等への柔軟な対応が難しくなることや、基礎疾患がある方の接種予約をかかりつけの各診療所に対応することが難しくなる点も考慮し、市での一括予約管理は実施しないことといたしました。また、各医療機関で予約を受け付けることで、特にかかりつけ医がいる高齢者等は通院の際に予約を取ることができ、メリットもあったと考えます。

個別接種の新規予約につきましては現在停止をしております。今後も自宅療養者支援やPCR検

査対応、インフルエンザの接種等の業務が入る状況ではありますが、個別接種を再開することになった際には改めて研究をしていきたいと考えます。

次に4点目についてです。情報発信につきましては、市報、ホームページをはじめ、LINEやフェイスブック等のSNSを活用し、予約開始日前などのタイミングで適時情報発信をしてきました。今後、情報発信をより充実させていくため、9月1日にツイッターで武蔵野市新型コロナウイルスワクチン接種情報を開設しました。市民接種の状況や予約情報等について、今後はこちらでも積極的に情報発信を行ってまいります。

5点目についてです。集団接種におけるインターネット受付、コールセンター受付の割合につきましては、予約システムを改修した6月15日以降の状況になりますが、インターネット受付分が全体の約88%で予約件数は1万8,406件、コールセンター受付が全体の12%で予約件数は2,483件です。郵送申請につきましては、開始した6月30日から9月1日までの間で467件の予約を受け付けました。6月15日から9月1日までの郵送を含めたそれぞれの割合は、インターネット受付が約86%、コールセンター受付が約12%、郵送申請による予約が約2%です。7月以降は接種対象が若い世代に移行してきていることから、インターネットの割合を多めに設定しています。

65歳未満の方には郵送申請による受付を実施してはいませんが、6月15日以降、あらかじめコールセンター専用の予約枠を設定し、電話予約を希望される方も予約が取れるよう配慮をしています。また、仮にコールセンターの専用枠が全て埋まり、インターネット枠に空きがある場合は、コールセンターからインターネット枠も取ることができる運用としております。

続いて6点目についてです。かかりつけ患者を優先する意図としましては、基礎疾患のある方は、できるだけ御自身の体調のことをよく知っているかかりつけ医療機関で接種をしたほうが安心という考え方によるものですが、市で通院頻度や回数等に応じたかかりつけ患者の定義づけは行っておりません。一般的には、定期健診を受診している医療機関や、介護保険制度における要介護認定の際に必要な主治医意見書を作成している医療機関が考えられます。ただし最終的には各医療機関の判断によるものと考えます。

個別接種予約については、基礎疾患があるかかりつけ患者を優先するとしている医療機関も



ある一方で、かかりつけかどうかに関係なく予約を取っていただいた医療機関も多くございました。現在個別接種の新規予約を停止していますが、これまで市報やホームページでかかりつけ患者優先の有無について医療機関別に掲載をしており、かかりつけ医療機関がない方や、かかりつけがあってもそこが個別接種を実施していない方については、この情報を参考に予約をお願いしてきたところでもあります。

続いて7点目についてです。優先接種の対象としていた12から18歳の方の9月6日時点での接種率は、1回目が41.1%、2回目が16.2%、各世代の中では最も接種が進んでいない世代であり、若い方への接種が今後の課題であると認識をしております。御指摘をいただいた夏休み期間中の接種ということで、優先的に予約受付を行いました。一方で40歳以上の方が感染した際の重症化の課題もあり、40歳以上の方も同時期に優先的に予約受付とした結果、40から49歳の方の1回目接種率は64%と、順調に推移をしております。この世代の方々の重症化を防ぐという目的に一定寄与しているのではないかと考えられます。10月以降、吉祥寺駅前広場に、よりアクセスのよい集団接種会場を設置する予定でありますので、若い方への接種をこれまで以上に推進していきたいと考えます。

続いて8点目についてです。モデルナワクチンはワクチンの特性上、一度配送したワクチンを他の場所に移送させることができないため、駅前広場に設置する仮設建物内にマイナス20度の冷凍庫を常設し、ワクチン管理を行う必要があることや、夜間は無人となる仮設の建物でワクチン管理を行わなくてはならないというリスクもあることから、設置は難しいと判断をしました。

なお、モデルナ製のワクチンの追加配分について申請を行い、初回配分日程が決定し、現在、むさしのエコリゾートを接種会場とすることを前提に、接種開始に向けて調整を行っております。

続きまして、9点目についてです。3回目接種やその後の接種については、まだ国や都からの通知や説明がありませんので、現段階では具体的な検討には至っておりません。今後3回目接種が具体的に進むのであれば、御指摘のような受験生の接種時期等についての考慮を検討していく可能性はあると考えます。より利便性の高い予約システムの在り方等につきましては、

今後とも研究を続けてまいります。

2項目めの1についてです。PCR検査の取組として、令和2年5月から令和3年2月の間、武蔵野市医師会と市の協働により、市内医療機関において医師が必要と認められる方に対し、予約制でPCR検査を行う武蔵野市PCR検査センターを開設しました。開設時としては、市内医療機関においてまだPCR検査体制が整わない状況の中、最大検査数が1日15名でありましたが、多摩近隣地域においていち早くPCR検査体制を確立したと考えております。

また同年8月からは、武蔵野市医師会の会員である医療機関においてPCR検査が開始され、現在は60医療機関で検査が実施され、そのうち25医療機関は医師会のホームページなどで公表も行っているため、市外から、この公表を把握して検査を受けに来る方もいらっしゃると思います。市ではPCR検査を実施する医療機関に対して、体制整備を行う費用として、検査実施医療機関として公表する場合は30万円、非公表とする場合においては10万円の補助金を交付いたしました。市民にとって身近な医療機関でPCR検査が受けられることにより、一層安心感をお持ちいただいたのではないかと考えております。

続いて2点目についてです。PCR検査の場所、実施数の推移についてですが、まずPCR検査センタースタート時、5月には月間で9件、6月39件、7月が一番多くて123件、8月119件、9月43件、10月14件、11月12件、12月6件、1月4件、2月1件と、今年の2月でセンターは終了しております。

続いて市内の医療機関ですが、昨年、令和2年の8月で78件、9月で301件、10月で393件、11月で388件、12月で712件、1月1,082件、2月589件、3月482件、4月1,184件、5月1,331件、6月931件、7月1,370件、8月になると3,011件となっております。

続きまして、3点目についてです。現状において、医師などの判断の下で、検査が必要なタイミングで必要な方に対し検査を実施しており、陽性を確定するということが適切であるとと考えております。

続いて、3項目めの1点目についてです。月ごとの1日当たりの平均人数を、本市における自宅療養者数の推移としてお示しいたします。本年1月106人、2月35人、3月14人、4月22人、5月38人、6月13人、7月63人、8月384人であります。

続いて、2点目と3点目についてまとめてお答えをいたします。御質問の臨時医療施設につきましては、多摩府中保健所管内の6市長名では、医療圏内の臨時医療施設開設に関して緊急要望を行い、令和3年9月3日に東京都は、酸素や抗体カクテル療法を行うなど、複合的な機能を有する酸素・医療提供ステーション、こちらは東京都が名前をつけておりますが、酸素ステーション改め酸素・医療提供ステーションを、味の素スタジアム内調布庁舎に9月中旬に整備するということを発表しております。

続いて4点目についてです。自宅療養者の増加に伴い、東京都フォローアップセンターの支援業務が遅れがちになっていたため、本年2月1日に本市独自の自宅療養者支援窓口を開設し、都の支援が始まるまでの空白期間を埋めるべく、約3日間の自宅療養者支援を実施しました。支援窓口の案内につきましては、2月の開設当初から多摩府中保健所や市内の医療機関、クリニックにおいて、本市にお住まいの自宅療養者に対して案内をしていただきました。9月1日からは、市医師会との医療連携や武蔵野市福祉公社との連携による日用品支援等を拡充した自宅療養者支援センターを設置していることを、引き続き市内の自宅療養者に案内していただくようお願いしたところであります。

自宅療養支援につきましては、医療支援の側面から言うと、一義的には自宅療養者の健康観察について、40歳未満についてはフォローアップセンター、それ以外の方については保健所という役割分担がなされていると認識をしておりますが、昨今の自宅療養者の急増により、フォローアップセンターと保健所の陽性者に対する連絡が、何日もたってからでないと届かないというような状況の中、本市においては、PCR検査を行った医療機関が担当医となり、いち早くパルスオキシメーターの貸与や電話等による相談、診療、症状に応じて酸素濃縮器の貸与を行い、東京都の支援が届いていない市民の命を守る取組を行っているところでございます。

続いて5点目についてです。自宅療養者に対する食料品支援は、当初、保健所の自宅療養者に対する案内から配達までに約3日ほどかかると言われていたことから、3日分の食料品の支援を2月1日から開始しました。食料品支援のレスキューフーズは内容が単一でありますので、多様なメニューから選んでいただけるよう、食事宅配サービスを行っている市内を含んだ民間事業者をお示しした、食事宅配サービス実施事業者リストを支援物資に同封し、御案内を行っ

ています。

さらに9月1日からの武蔵野市自宅療養者支援センターとして機能を拡充した際に、新たに日用品支援を開始し、物資メニューとしては、栄養ゼリー、パックライスやインスタントみそ汁等、食欲のない方向けの軽食セットを用意したところです。今後も支援内容等については、利用状況等を見ながら適宜見直しを行っていきたいと考えます。

4項目めについての1点目です。現在、地域子ども館運営業務委託契約による報告事項として、各館ごとに自己評価を実施しております。自己評価の評価項目としては、年間目標、安全管理、こどもクラブ、あそべえの連携、学校との連携、地域との連携、他機関との連携の6項目について目標を立てた上で、現状の確認、目標達成のために取り組んだこと、課題についてチェックを行い、来期の目標を立てることでマネジメントサイクルを構築しております。情報共有については、館長会議、支援職員会議等において全職員で共有し、目標達成のため取り組んでいます。

2点目についてです。学童クラブ在籍児童全保護者にアンケートを実施しています。今年度より電子申請上で回答を可能とし、回答率が上がりました。アンケート結果はホームページに開示、内容は市所管課と子ども協会の事務局で共有し、館長会議、支援員会議にて協議、日頃の運営向上に反映をしております。また、保護者会においても学童クラブへのアンケート等を行っており、それに基づき、毎年学童クラブ連絡協議会より御要望を受けています。その中で、障害児枠の児童の6年生までの受入れなど、実現に至っている事案もございます。両アンケートにおいては一定の評価を得ていると考えております。

3点目についてです。育成状況は通常時より、各保護者と連絡帳、電話、メール等で情報共有しています。コロナ禍においては、緊急メールの活用、保護者会のリモートでの開催を実施しています。日々の育成の様子や保護者からの心配事については連絡帳での対応が主なものとなります。この取組については保護者向けアンケートの結果でも評価をいただいています。またコロナ禍においても、個別面談が求められるケースについては面談を実施しています。保護者会は分散開催やリモート開催等、各館の状況に応じて実施をしています。

4点目についてです。第三者評価の実施につきましては、保育の質の向上の取組として、来

年度からの実施に向け検討してまいります。現状の評価項目を国の自己評価ツールの内容に近づけるように努めてまいります。

以上です。

○15 番（蔵野恵美子君）

それでは再質問をいたします。まずワクチン接種からですけれども、遅いと言ってもいろいろな部分についての遅いという御意見を様々いただきまして、今回質問したわけですが、定点観測の接種率で見れば都の平均を常に上回っていることを考えれば、結果的には一定程度確実な接種は進んでいると思っています。

ただ一方で、その予約体制から接種体制に至るまでに、全体的にやはりちょっとかゆいところに手が届かないというか、市民ニーズと少しずれているところがあって、残念な感想を持たれてしまっているということは感じました。要するに市長も様々な場面で、国からの供給が減らされているということはおっしゃっているので、報道等でもそういったことは取り上げられていますから、それはもう市民は実は理解されているのです。

その上で、今回質問したようなそういう不便さが幾つか重なると、遅いとか、いま一つというような感想を持たれてしまうと、今回の私の結論なのですけれども、思うのです。それで、今後長期化すると思われる感染症対策、それに伴って3回目接種等も可能性が大きいですから、そういった不便さを一つ一つ解消していくことが必要であると思いますので、再質問させていただきます。

まず、大方の方は予約の取りにくさ、予約にかかる労力と時間、これに対する不便さをお持ちであると感じます。私自身も実際そう思いました。ですので、可能な限りスムーズに予約が取れる空き状況サイト、この見直しをすることで、もう大半の不便さを解消できると思うのです。答弁では、個別接種を一括管理するのは難しいと様々な御理由を述べていましたけれども、それは多分渋谷区も同じだと思うのです。それはぜひ渋谷区の担当に聞いていただいて、どうやってそこを解消しているのかというのは、ぜひ調べていただきたいなと思います。

もうこの予約サイト、これさえあれば、大方皆さんの御不便さは解消されるのではないかと

思います。やはり空いている日付が見渡せないと、突然予約サイトに入って、大急ぎで、5分ほどでばーっと埋まってしまう中で慌てて取るというような感じですから、個別接種に関しては一軒一軒かけて、ずっと話中で、もうそれでやっとながったとか、そういうことを考えれば、一発で見て、多少オンタイムではないと思いますけれども、ある程度はもうそこでめどがつくわけです。だからこれさえ取り入れれば、大方の市民の不満、いまいちという感想が消えると思います。ですので、改めてそこについての見解を伺いたいと思います。

それともう一つは、国からの供給が限られているとはいえ、供給されたワクチンは一日も早く接種するという視点が、ちょっと不十分だったのではないかと思います。壇上で質問した、その接種の曜日です。木、土、日に限られている。そうすることで結果的に、予約日から接種日がどうしても遅くなってしまうわけです。ですからワクチンの供給が限られていても、やはりもう少し曜日の幅を広げることで、早い接種ができる人が増えてくると思うのです。

今回は補正予算の案件ですからざっくりお尋ねしますが、今後吉祥寺北口駅前広場に新たな特設会場を設置するということですが、これは予約が必要なのかということと、接種曜日、週にどれくらい接種が行われるのか、それからそのほかの集団接種会場として、中央地域では市民文化会館に変更する、武蔵境地域では市民会館での接種を継続ということですが、あわせてこちらの接種曜日を伺いたいと思います。

○市長（松下玲子君）

まず、様々予約方法等について、当初インターネットのシステムが非常に稼働が遅いということで御不便をおかけしたことを、申し訳なかったなと思っています。おわび申し上げます。

その後、システムを変えたことで、今度は逆に、途中で止まることなく、取れ過ぎるぐらいさくさく取れるので、5分で終わってしまう、10分で終わってしまう、30分で終わってしまうということが、限られた量の中ではあったのかなと思っていますが、個別接種につきましては、例えば近隣市などでも、当初は市で一括して予約していたものを、やはりそれだと各医療機関の事情に応じた対応だったり、基礎疾患のある方の状況に応じた対応が取れないということで、システム一括予約をやめて、各医療機関に変更したという事例もあります。現状武蔵野

市では、個別接種を予約停止しておりますので、御指摘いただいた点については、また個別接種を行うことがあれば、今後の課題として考えたいと思います。

今後の接種につきましては、吉祥寺駅前広場会場、ファイザーは、予約は必要となっております。接種日は、水、木、金、土、日の週5日を予定しています。市民会館と市民文化会館はこれまで同様の週3日、木、土、日。今の3つはファイザーですが、むさしのエコリゾートのモデルナは週6日、月、水、木、金、土、日を予定しております。どちらも予約制となっております。予約をお取りいただいた上で接種にお越しいただきたいと思っています。アストラゼネカは保健センターで週2日、土、日に行います。

以上です。

○15番（蔵野恵美子君）

予約サイトの件です。個別接種といっても、かかりつけでなくてもいいというような医療機関もありますから、そういったところでは、ある程度は解消できるのではないかと思います。ちょっと私もそこまで渋谷区のほうに確認していないので、ぜひこれは見ていただきたいなと思います。本当にこれさえあればというわけではないですけど、大方の市民の不安というか、不満というか、それは解消できると思いますので。結構これはほかの自治体でも今注目されています。

それと、駅前の接種会場で曜日が増えるということで、それはいいことだと思います。ぜひそういった体制でお願いしたいのですけれども、一日も早くということ言えば、65歳以上の接種以降の切替え、つまり64歳以下の現役世代の接種のタイミングで、駅前の接種会場の切替えも可能だったのではないかと思うわけです。先ほど、モデルナ社のワクチンは管理が難しいからということで理解しましたけれども、普通の集団接種会場、これは8月に出された新型コロナワクチンの接種実施計画の接種順位です。ここで赤線を引いていますけど、この4番の65歳から74歳の方以降、この5番以降で駅前の接種会場ができたわけです。

結局当初は、接種会場は、まず3駅圏、吉祥寺、三鷹、武蔵境にそれぞれ1か所ということで、南町コミセン、総合体育館、市民会館の3会場で行うことにして、それを選定した理由と

しては、エレベーターを使うことで密になることを避け、また高齢者等に配慮し、階段を使わずに接種が可能となるように、1階で出入りできる施設を会場としたと行政報告でありましたから、その視点でいけば、この現役世代の5)から駅前の接種会場は実施するべきだったと思います。そうすれば、もう少し供給されたワクチンを早く打つという視点では、利便性も高まったのではないかと思いますので、この点について何か御意見があればなと思います。

それと、12歳から18歳、小・中学生、高校生の夏休みということを考慮した8月30日時点での接種率は、ホームページに載っていましたので、1回目が33.7%、2回目が11.9%です。これに関しても、やはりもうちょっと夏休み中に受けたかったという御意見があります。私自身もそう思いましたので、これに関しては、もう過ぎましたけれど、今後冬休み、それから先ほど受験シーズンと申しましたけれども、ぜひ今回の点を考慮した予約スケジュールの設定をお願いしたいと思います。こちらは先ほども検討しますということだったので、要望としておきます。取りあえずここまで。

○市長（松下玲子君）

吉祥寺駅前広場会場をもっと早く準備していればよかったのではないかと御視点からの御質問かと思いますが、ちょうどその辺りに供給量が激減しまして、今回行うような週5日間、駅前で稼働して接種を行うという状況ではなかったのが現状です。

そうでなければ体育館でも夜間の接種を行いたいと準備して、夜間も少し行いましたが、数がなくなって、夜間ができなくなったりもしていますので、ひとえに供給数。駅前の設置などにもやはり許可が必要だったり、準備が必要なのですけれども、この供給数というのを、先を見通してお示しいただくと行えるのですが、大体2週間ごとの数で非常に不安定な中でしたので、なかなかその先の予定というのが立てづらかったのが現状ですが、ここに来て、一定モデルナの追加配分にも応募して、そうした中でファイザーとモデルナとすみ分けも行える、アストラゼネカもありますが、このタイミングでの駅前広場接種会場が設置できる見込みとなったということでございます。



○15 番 (蔵野恵美子君)

慎重に進めたということではあると思うのですが、やはり市民からすると、そういうところがちょっともどかしいというか、何でということになって、いろいろな御意見になるところでありまして、過ぎてしまったことですが、こちらはこちらで早急に進めていただきたいと思います。

それで墨田区の件を聞きましたけれども、調べられているとおり、墨田区の接種率の高さに関して、様々な方が様々なところでいろいろなことを分析されていて、私も読んでみたのですが、やはり要因としてはおっしゃるとおり、区というよりも、知識の豊富な保健所の圧倒的なリーダーシップで、全て接種券の郵送から予約受付、会場設置、国の方針が定かでない時点から、もう予測を立てて、先手先手の対応をしていたということなのです。

ただ、その取組が幸運にもといいますか、国の方針と大方予想どおりに合致したのが、その高い要因だと言われています。その予測が多少強引だなと感じるようなところもあって、例えば2回目接種のワクチンがまだ供給が定まっていなかったのに、決まっていなかったのに、もう1回目を打ってしまえというような、ちょっと強引なところもあったけど、結果的に国からの供給でうまくいった、そういったいろいろな予測と、国の二転三転する方針がうまく合致したということでもあります。

なので、武蔵野市はどちらかというと、国の方針が出てから、ある程度見えたところで決めてということで、そこで差が出ているのだなというふうには感じました。今の集団接種会場の件もそうですよね。だからどちらがいいかというのは、結果論になってしまうから難しいのですが、ある程度やはりこういった緊急事態というか、非常事態だから、そこは墨田区の例も参考にさせていただく点は多々あると思いますので、ぜひお願いしたい、研究していただきたいなと思います。

3回目接種、それから通年接種とか、今後出てくると思いますので、もう若年層も2回目接種が終わるからではなくて、やはり今後もインフルエンザのワクチンのように続いていく可能性というのを見越して、今日申し上げたような予約システムだとかそういった研究は、積極的にお願いしたいと思います。要望としておきます。

くらのえみこ Official Site

<https://www.emikokweb.com/>